

No.1087(二〇一一年一月一日号)から
No.1110(二〇一一年二月一五日)まで

No.1087(二〇一〇年一月一日)

◇巻頭言◇二十三年余の団結とその力 総論

―国鉄闘争の総括運動の視点、(二)―

保守二党制の帰結(一)

―エンゲルスとレーニンの考察―

◇資料と解説◇ 独占資本主義下の自由競争

―環太平洋経済連携協定(TPP)をめぐる―

◇資料1 ◇経済三団体見解(二〇一〇年十一月十一日)

早期参加を求める

◇資料2 ◇連合談話(二〇一〇年十一月九日)

政府の強いリーダーシップ期待

◇資料3 ◇金属労見解(二〇一〇年十一月五日)

早期参加を求める

◇資料4 ◇基幹労連事務局長談話

市場喪失、生産拠点海外流出、雇用の喪失

裁かれるべきは都教委・悪都議

―「分限免職取り消し」裁判―

JALパイロット九四名指名解雇

たたかいが労働法の出発点

―戦後労働運動制推移―

読者からのおたより

No.1088(二〇一一年一月一五日)

◇巻頭言◇大政翼賛政治への誘導

―民主党「分解」「解体」が始まった―

「労働」から「働く」へ

―連合の新社会像「働くことを軸とする安心社会」―

社会主義政党的再建

―新社会党結政一五周年を迎えて―

なくせ、退職・再雇用制度

―業務の広域集約の次は、退職・再雇用考の遠隔地配転か?―

最大の困難「四党合意」

―国鉄闘争の総括運動の視点(二)―

読者からのおたより

山下 俊幸

伊勢 太郎

編集部

増田 都子

茨城ユニオン

滝野 忠

編集部

原 野人

N関労

山下 俊幸

No.1089 (二〇一一年二月一日)

◇巻頭言◇

日米合同軍事演習反対！ 2・13あいば野集會

稲村 守

現今の階級情勢

小林 晃

―反撃の条件―

二十三年のたたかい 背後に学習

山下 俊幸

―国鉄闘争の総括運動の視点(四)―

地域の仲間と共に、諦めずに闘いぬいた女性一三名

―学校給食分会の取り組み おきたまユニオン―

骨抜きにされる「介護保険法」「バリアフリー法」

―当初の理念はどこへ行った―

自立支援法は障害者殺人法

里内 龍史

―二〇一〇年改正障害者自立支援法反対―

障害者当事者は高齢社会の水先案内人

滝野 嘉津子

―「バリアフリー」新法にもとづく基本構想を実現させる会」活動から―

読者からのおたより

権力 求心力が遠心力に

―編集部だより―

No.1090 (二〇一一年二月一五日)

◇巻頭言◇ 「大反動期」を乗り切る

原 野人

向坂先生に学ぶ (一)

時短が雇用をふやす

編集部

―若者の雇用拡大への道―

日本郵政「大リストラ」を準備

川越 俊巳

―「新たな人事・給与制度」改革の大幅な見直し―

「賃金は中国なみ」めざす

滝野 忠

―十一年版『経労委報告』のねらい―

地区労のような組織として

元国労T

―国労闘争「政治解決」への想い―

労働条件改善・権利確立の闘いの前進に向けて

―国労の歴史から考える(一)―

統一地方選の焦点

橋下・大阪都構想は独占資本の意志そのもの

山下 けいき

―地方自治の破壊と際限のない競争と貧困化―

読者からのおたより

No.1091 (二〇一一年三月一日)

◇巻頭言◇ 資本主義的合理化の本質

向坂先生に学ぶ(二)

エジプト民衆はなに望む

— 軍と民衆の利害は一致できるか —

ものすごい経済発展 農村から都市へ

— ベトナム訪問記 —

無責任体制と「日の丸・君が代」

TPPを検証し、地域を守る

— 北海道上川町安部逸雄議員の質問 —

問題がいつばい「人事・賃金制度の見直し」

— 国労運動発展にむけて —

読者からのおたより

原野人

滝野 忠

相田 邦夫

西村 昭

No.1092 (二〇一一年三月十五日)

◇巻頭言◇ 沖縄「留学」

TPPで揺れる北海道

— 久しぶり「北の大地」訪ねて —

支配階級はいかにして『支配』を可能にするか

資本主義は変革を求めている

— 二〇一一年春闘めぐる諸情勢 —

仮想敵国は北朝鮮、中国

— 日米合同軍事演習反対！ — 一・一三あいは野集會決議 —

石油利権、シオニズム、部族、民族、宗教

— 民衆蜂起 北アフリカ、中東諸国 —

社会主義の魂の復権

— 社会主義協会の六十年と向坂逸郎(上) —

読者からのおたより

稲村 守

花井 吉宅

毛利 孝雄

滝野 忠

No.1093 (二〇一一年四月一日)

◇巻頭言◇ 歴史の要請

労働者の街から福祉の街へ

— 釜ヶ崎連帯交流 たくさんの支援物資を提供いただいて —

新人事賃金制度「能力主義」とは何か

社会主義協会の六十年と向坂逸郎(下)

恐慌の根本原因は何か

— 向坂先生に学ぶ(三) —

読者からのおたより

編集部だより

稲村 守
原野人

伊勢 太郎
稲葉 耕一

No. 1094 (二〇一一年四月一五日)

◇巻頭言◇ 独占資本の犯罪

すべての原発を止めさせよう
なぜ急ぐのか

原野人

— リビア侵略の本質 —

滝野 忠

死の灰

ザ・エコノミスト

エネルギー多量依存からの脱却

橋爪 健郎

— 福島第一原発事故と川内原発（鹿児島県） —

震える一一春闘 — 集中回答の崩れ一層の個別化進む —

帯広闘争団 国労盛岡地本にお見舞い

国労帯広闘争団

生かされなかった教訓

相沢 瑞男

— 大地震 避難所、行政、障害者 —

読者からのおたより

No. 1095 (二〇一一年五月一日)

◇巻頭言◇ 東北・関東大震災に立ち向かおう

小西 純一郎

東日本大震災と労働運動

編集部

反原発の大運動を福島で

稲村 守

— 京都の合同繊維労組が救援物資を搬送し東北の被災労組と交流 —

生かされなかった教訓 (二)

相沢 瑞男

— 宮城県の学校現場から —

世代交代で三つの課題を实践

川越 俊巳

— 発信つづけて二八年「反合研通信」三〇〇号達成！ —

悲しみを分かち合い、励ましあう — 被災地の国労組合員 —

気をつけよう！ 大災害を利用する支配者の意図

読者からのおたより

編集部だより

No. 1096 (二〇一一年五月一五日)

◇巻頭言◇ 現代の怪物

滝野 忠

— 原子力発電の虚構 (上) —

東日本大震災

松枝 佳宏

— 阪神大震災の教訓は生かされたのか —

日本の政治はどこへいく

編集部

— 統一地方選の結果から —

変わりつつある世論を力に浜岡原発を止めよう

鈴木 卓馬

地震 津波 炉心溶融 放射能

伊勢 太郎

— 問われる自然と社会のあり方 —

放射能への恐怖は「風評」を超える

— 隠蔽された内部被曝の怖さ —

読者からのおたより

編集部だより

No.1097 (二〇一一年六月一日)

◇巻頭言◇ 梅原猛氏と不破哲三氏の原発観

文化人の哲学の貧困

議員報酬は高くない

— 議員報酬条例改正の原案に賛成し、

日本共産党、公明党の修正案に反対の討論(上) —

『挙国一致』大政翼賛政治への危険

— 大地震 大津波 放射能 春闘とメーデー —

原発はクリーン、安いは大うそ

— 原子力発電の虚構(下) —

◇原発作業労働者の実態◇ 低賃金、低手当、大量放射線

— 地面の穴は見つけられるが放射線は見えない —

読者からのおたより

山下 けいき

原 野人

編集部

滝野 忠

No.1098 (二〇一一年六月十五日)

◇巻頭言◇ 連合は「原子力村」構成員

労組ナショナルセンターと原発

「改憲」論の深層

「報酬大幅削減」は俗論への迎合

— 議員報酬は高くない(下) —

大地震で「道州制」進めたい

— 日本経団連の「復興」策 —

◇資料◇ 東日本大震災と福島第一原発事故について

大震災の階級性

— 東日本大震災復興支援ボランティア活動の中で

読者からのおたより

編集部だより

山下 けいき

編集部

坂上 富男

山下 俊幸

No.1099 (二〇一一年七月一日)

◇巻頭言◇ 私の趣味、されど「階級的」

読書倶楽部「タンポポ」(読書の広場) 編集長より

浜岡原発廃炉へ

— 七月十七日、静岡での全国集会に結集を —

ピンチをチャンスに(職場の仲間と向き合おう)

— 日本郵政 ボーナス大幅削減 —

現場感覚失った市教委、校長

— 生かされなかった教訓 —

職員犠牲性のサマータイトム制導入するな

— 勤務時間の変更は交渉事項(兵庫県職労) —

「三・一一」新たな情勢

— はじまった労働組合大会 —

チエルノブイリ 二五年後 — 史上最悪の原発事故後の長い生活

読者からのおたより

滝野 忠

相沢 瑞男

静岡共闘

No.1100 (二〇一一年七月一五日)

◇巻頭言◇ 議員定数に対する考え
「たて・よこのコミュニケーション」

小林 義昭
被災地メーデー

―第一六回被災地メーデーアピール ともに生きよう!―
すべての原発の停止、廃炉を ―「原発発自治体議員・市民連盟」結成宣言―
一日も早い空の安全と整理解雇四要件を守り抜くために!

稲村 守

―6・21 JAL 不当解雇撤回京都支援共闘結成、稲盛会長要請一日行動も―
JR東日本の株主総会に参加して

資料 JR不採用問題に関する基本的考え方 (JR七社社長)
新「福祉国家」論の階級性

小林 晃

読者からのおたより

編集部だより

No.1101 (二〇一一年八月一日)

◇巻頭言◇ 今、沖縄では

毛利 孝雄

―オキナワだより①―
現象をラディカルに分析

花井 吉宅

―「社会通信」最新号から―
基本原則とり戻せ 労働組合運動

編集部

◇投稿◇ 地震があばいた産業構造
―大震災下はじまった組合大会 (一)―

「国労」らしい、区切り目指して
「戦い済んで」も日は暮れません

清野 隆

高齢者・女性・病弱者が健康に、働き続けられるために!
―若い人ほど読んで欲しい! 「新賃金制度」(上)―

必要なのは福島の人達との交流
―福島市、飯舘村で放射線測定―

編集部

読者からのおたより

No.1002 (二〇一一年八月一五日)

◇巻頭言◇ イデオロギー闘争の現局面
原発政策にみる国家独占資本主義体制

伊勢太郎
滝野 忠

―原子力村はその「あらわれ」―
つくば市 エネルギー政策の転換を求め意見書を全会一致採択

金子 和雄

―「脱原発を語る集い」九月十一日、出席を―
現情勢と労働運動の課題

橘 幸英

反原発と原発推進

編集部

―組合大会から 電機連合、日教組大会 (二)―
急がば回れ・・・二十年間でようやく千冊の読書

稲村 守

―千冊目は原野人さん著『日本型社会主義と脱原発』―
読者からのおたより

No.1103 (二〇一一年九月一日)

◇巻頭言◇ 震災と放射能汚染に苦しむ福島島の農民

円谷 寛

原発事故がニクイ

民主「崩壊」―日本政治はどこへゆく―

春闘総括そして国鉄闘争終結 ―私鉄、国労大会から(三)―

◇資料と解説◇ 競争 競争そして競争

「保守二党」体制下の日本経団連

◇資料 経団連二〇一一年度総会決議(二〇一一年五月二六日)◇

国難を乗り越え『新たな日本』を創造する

ますます企業内化する危険をはらみつ

―二四年の闘いに終止符を打った国労全国大会―

読者からのおたより

編集部だより

No.1104 (二〇一一年九月十五日)

◇巻頭言◇ 学習 そして プール制

「国鉄闘争」総括への基本視点

NHK朝ドラ「おひさま」にあきれた校長！

暗記それとも読みかつ考える

―最近の勉強法―

「日刊 みんな」

西村 昭

滝野 忠

被災地復旧・放射能、民主政権

編集部

―十一年組合大会 焦点と特徴―

新自由主義でなく「福祉国家」めざす

―全労連評議会「フクシマ」で「脱原発・原発ゼロ」へ―

野田内閣に世代交代の「芽」 ―政党再編は必至―

採用差別事件「解決」、そしてJR職場

森 勉

―東京地本森代議員の発言から―

読者からのおたより

No.1105 (二〇一一年一〇月一日)

◇巻頭言◇ 違いを乗り越えた広大な脱原発戦線を

全労協

―労働組合の社会的責任として―

世界は不均衡に発展する

編集部

―「高利貸国家」アメリカと中国―

生産性三原則への批判こそ ―労働運動再生への課題(上)―

東海第2原発の再稼働中止、廃炉を求める

相沢 一正

―広瀬隆さんの講演会に参加されている皆さん方をお願いします―

野田民主党政権のゆくえ ―政党再編は必至―

読者からのおたより

No. 1106 (二〇一一年一〇月一五日)

◇巻頭言◇ 保守と革新

「小さく」なったアメリカ — 激動する世界の動き—
原発に「最終的には依存しない」 — 連合大会と会長発言—
教育と国家

ますだみやこニュース

伊勢 太郎

— 近代民主主義教育の理念と増田さんの教育実践—
停電そして原子力

毛利 孝雄

— オキナワだより②—
国鉄闘争の成果を全労協運動に生かそう

— 全労協第二十三回大会報告—
生産性三原則破たんの実態 — 労働運動再生への課題 (下) —
読者からのおたより

編集部だより

No. 1107 (二〇一一年一月一日)

◇巻頭言◇ 国鉄闘争の終結にあたって

山下 俊幸

階級闘争はつづく

資本主義的合理化と議論

滝野 忠

— 「反合理化」での合宿・勉強会—

自然と人間 — 原発爆発からあらためて考える (上) —

内部被曝を無視する安全基準は信用できない!

— 政府・東電の宣伝に抗し市民科学者国際会議—

民主はやっぱり保守党だった — 二大政党制づくりと学者・文化人—

若者の失業率はなぜ高い

— 向坂先生の緒論稿を読み直そう—

読者からのおたより

No. 1108 (二〇一一年一月一五日)

◇巻頭言◇ 連合「安心社会」論への不安

滝野 忠

— 二年春闘「構想」に関連し—

基地、原発ない平和な未来をつくる労働運動

宇都宮地区労

— 二〇一一全国地区労交流集会 in 沖繩—

国鉄闘争の総括

小山 一郎

— 私の想い—

国鉄闘争総括に意見を

編集部

総括へのメモ (総論 上)

組合つぶし、モノ言う労働者の掃討作戦を許すな

— 『JAL闘争に連帯する兵庫の会』結成集会—

読者からのおたより

No. 1109 (二〇一一年二月一日)

◇巻頭言◇ ポンティ・イタリア新内閣と「橋下組」

伊勢 太郎

― 政治は世界中で融けている ―

TPP (自由貿易) への基本視点

― マルクスの時代と現代 ―

国鉄闘争総括に意見を

― 国鉄闘争総括へのメモ (総論 下) ―

階級闘争の魂― 残照を力に

六津 五郎

― 国労闘争団の闘いは、いかにして心の中に ―

沖縄米軍基地の「原点」

毛利 孝雄

― 毛利孝雄のオキナワだより③ ―

読者からのおたより

No. 1110 (二〇一一年二月十五日)

◇巻頭言◇ フクシマと労働運動

中村 平治

政治の貧困は国民性の裏返し

大野地区平和運動センター

― 本質を見極める感性必要 ―

橋下君は極右・反動

芳川 廣一

破局への予感

編集部

― 福島原発・女川原発とわが古里の柏崎刈羽原発を憂ふ ―

低い賃金に大きな不満

労大峡東講座

― 私たちの賃金 職場交流 評価制度は? ―

歴史は「新しい社会」を求めている

― 二〇一二年春闘そして新しい社会像 ―

読者からのおたより